

全日本スーパーフォーミュラ第4戦&第5戦鈴鹿大会。 日曜日の第5戦、Juju は失意の予選から最大のリカバー！



結成2年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、5月22日（金）～5月24日（日）に三重県・鈴鹿サーキットにて開催された『2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦・第5戦鈴鹿サーキット』に参戦いたしました。今大会は金曜日に2回フリー走行、土曜日に第4戦予選&決勝、日曜日に第5戦予選&決勝が行われる形となり、金曜日は暑く、土曜日は肌寒く時折小雨が降り、そして日曜日は強い日差しの中で決勝が行なわれるという、大きく変化するコンディションの中での戦いとなりました。

HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の10号車をドライブするJujuは、前日の第4戦で19位スタートから14位完走という今季ベストの結果を残しました。レース中のペースも良く、オーバーテイクシーンも鮮烈で、もし2度目のセーフティーカーの際にステイアウト戦略を取っていれば確実にポイント圏内でゴールできた内容でした。喜びよりも悔しさが勝る結果として受け止め、チームは第5戦の予選を最大の課題として万全の体制で日曜日を迎えました。

しかし迎えた第5戦予選、気温24℃、路面温度は33℃と、前日より路面温度も上昇しつつある中、グループAで出走したJujuにまさかのトラブルが襲いました。作戦どおり



中古タイヤでバランスをチェックし、タイヤ交換後、再スタート直後に「右フロントタイヤが緩んでいる」と Juju が無線で叫び、ピットロードで停止。メカニックが駆け寄りましたがその場では何もできず、再びコースに戻って 1 周をゆっくりと走りピットに戻るしかありませんでした。Juju は予選アタックをすることなく、失意のままマシンを降りました。

野田英樹監督が「Juju、ごめん。ゆっくりとマシンにダメージを与えないように、他者の邪魔をしないように戻ってきて。こちらから後方の状況を指示するから」と無線が飛びました。無線では無言のままピットに戻った Juju は、悔しさを噛みしめながら、「それでも一番悔しいのはメカニックさんのはず。気持ちを切り替えてみんなで頑張っポイントを狙おう」と気丈にチーム全体を鼓舞しました。

午後 2 時 45 分、気温 25℃、路面温度 40℃というコンディション、初夏を思わせる日差しの中、24 番手イン側グリッドからのスタートとなる Juju は決意を新たに 31 周レースへの決勝スタートを迎えました。

スタート直後の 1 周目、中団グループで接触やスピンが発生し、いきなりセーフティーカーが出されます。2 台をパスし、22 番手で戻ってきた Juju は失うものは何も無いとばかりにそのタイミングでピットに飛び込み、ニュータイヤに交換し、まさに攻めのレースを開始します。

8 周目の第 1 コーナーで 1 台をパスし、23 番手。さらにペースを上げ始めるタイミングでピットウィンドウがオープンし、そのラップで 6 台のマシンが飛び込みましたが、タイヤが新しい Juju は当然ステイアウトを選び、18 番手、16 番手とハイペースで前をいく集団を追いつけます。10 周目の 130R では豪快に前をいくマシンをパスし、14 番手で 11 周目を終えると、前に行く 2 台のマシンとほぼ同じペースで周回を重ね、上位陣のタイヤ交換に乗じて 16 周目には 13 番手までポジションアップ。前に行く集団と同等なペースで周回を重ね、レース距離の半分以上を過ぎた 19 周目にタイヤ交換の義務を果たして 22 番手から再びレースに戻りました。

レース終盤、前に行くヨーロッパのドライバーたちを巧みに追い詰め、ピットからの細かなオーバーテイクシステムの使用状況の情報を得ながら、最後まで諦めずに攻め続ける Juju。圧巻は最終ラップの 130R で、前に行くドライバーをアウトからギリギリまで攻めてオーバーテイク。元 F1 ドライバーでもあった野田英樹監督を含め、チーム全員が息を飲む瞬間でした。「Good Job!! すごいよ、Juju」と無線が飛ぶ中、21 位でチェッカー。ドライコンディションのクリーンなレースで、何度もオーバーテイクを演じた Juju は、無線でチームスタッフに「ありがとう、みんな。オーバーテイクもできたし、攻めのレースができました。次も頑張りましょう!」と元気な声でその気持ちを伝えました。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
5	鈴鹿	31	晴れ	25℃	40℃	24	21

※天気、気温および路面は決勝スタート時

Triple Tree Racing





◆ドライバー Juju のコメント

「今日は予選で右前のタイヤがはまっていなくて……。チームスポーツですから、そういったことも起きるのは仕方が無いですが、自分としては昨日の予選でタイムを出せていなかったこともあって、今日の予選では絶対にタイムを出そうと賭けていたので、そこは悔しかったですね。レース自体は最後尾からのスタートになってしまったのですが、順位は上げられましたし、ダーティエアの中でのペースも悪くありませんでした。もう少し前のほうで走っていたら、周りの速いドライバーと同等レベルのペースでは走れると思うのですが、やはり予選ですね。レースは自信あるので、最後の 130R は意地でした（笑）。もう少し早い段階で仕掛けられたら、もっと良かったという気持ちもありますが、次の富士は得意なサーキットですし、事前テストもありますから、自分自身も期待しています」

◆監督 野田英樹のコメント

「順位はともかく、今日戦っていたドライバーたちは F2 で上位を走っていた経験あるドライバーでしたし、簡単にはいかせてくれない状況の中でしっかりと戦いポジション争いをして、一步も引くことなくオーバーテイクもして、最後にはギリギリだったと思うけど 130R でアウトから行って抜いてくれました。Juju 的には十分良いレースをしたと思います。チームが Juju の足を引っ張ってしまったのは心が痛いですが、それはチーム全員がわかっていることだから、レベルアップするしかないですね。ずっとダーティエアの中で遅いマシンに引っかかったり、タイヤを痛めたりしているので、予選で前にいけば、周囲に

Triple Tree Racing



引っ張られてコンマ 5 秒は今のままでも上がると思います。そうなれば前のほうで戦ってくれると思いますし、世界が変わる。もう少しです。だいぶ近づいてきたと思います。チーム全員で頑張って、次の富士スピードウェイで結果を残したいと思います」

◆代表 村司宏樹のコメント

「レース前、スポンサーの皆様への挨拶で、Juju が『今日は攻めるレースをする』と言っていましたが、本当にその通りのレースができたと思います。順位以上に、本人には出し切った満足感はあると思います。予選のトラブルが無ければ、もっと上位からスタートできていればというのはありますが、次です。次。自分たちは戦えるポテンシャルを感じていますし、もう少しでポイントに手が届くポジションには近づいていると実感しています。諦めずにチャレンジし続け、メカニックたちもタイヤ交換の練習を引き続き頑張って、チームが一丸となって戦っていく。次の富士でも、皆さんに納得していただけるレースがしたいです。このチームは、きっとやってくれると信じています」



◆本件に関する問い合わせ先◆

Triple Tree Racing チーム代表 村司宏樹

e-mail: muraji@3tree.jp / mobile :080-3624-3989

Triple Tree Racing

